

能代山本医師会病院

# 全身MRIがん診療に 症例挙げメリット強調

高原教授  
学術講習会



全身MRIの講演をした  
高原教授

耳を傾けた。県の「地域がん診療病院に準じる病院」に認定された同病院は今年度から3年計画でがん診療提供体制の充実整備に取り組んでおり、講習会もその一環。

能代山本医師会病院主催の第1回がん診療学術講習会がこのほど、能代市柳町のプラザ都で開かれ、市内外の看護師らが「全身MRI(磁気共鳴画像装置)を考案した高原太郎・東海大工学部医療生体工学科教授の「全身MRIによる癌の診断と経過観察」と題した話に

医師、看護師、放射線技師ら約100人が出席した。全身MRIは、正常細胞に比べて水分子の動きが鈍いがん細胞を鮮明に画像化する手法で、耳から足まで検査できる。脳梗塞の初期診断に使われてきた。高原教授は全身MRI

ついて、放射線被ばくがないため人体への影響がほとんどなく、治療効果判定に使用できるなど特長を挙げ、症例を見せながら説明した。

どんな臨床の場面で使えるかなどメリットを強調し、「がん検診で使うPET(陽電子放出断層撮影)などに比べて保険点数が6分の1から7分の1の費用で済むので、治療の経過観察に有用」と呼び掛けた。